

# ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉をひらく●道をひらく●口・目をひらく●花がひらく●運をひらく●文化をひらく●インターネットをひらく●新聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——

今どきの

特集

座談会

## 男性の育休取得体験談



2024.3

54

今どきの

# 特集 座談会 男性の育休取得体験談



やいた たつや  
矢板 辰哉さん

- ① 35歳
- ② 福祉関係
- ③ 3人
- ④ 令和5(2023)年夏から10か月間(3人目)



くさか じゅんや  
日下 純也さん

- ① 32歳
- ② 教育関係
- ③ 1人
- ④ 令和5(2023)年から半年間(現在継続中)



とねがわ つばさ  
利根川 飛翔さん

- ① 34歳
- ② 鉄道会社
- ③ 1人
- ④ 令和5(2023)年に半年間

## プロフィール

- ① 年齢
- ② 職業
- ③ 子どもの人数
- ④ 育休期間

社会の中で様々な環境が整えられてきている今、実際に育児休暇を取得した男性たちにその経験やそこで得たものなどを聞いてみよう！と企画しました。この座談会が、多くの育児男性たちへのエールに、さらに既に育児を終えた人たちにとっても、多くの気付きや学びになることを期待します。(令和5(2023)年12月開催)

**司会** まずは自己紹介からお願いします。

**利根川** 令和5年1月に第一子の娘が誕生し育休を取りました。鉄道会社で運転士をしています。

**日下** 令和5年7月に子どもが生まれたので、現在半年間の育休期間中です。

子ども向け英会話スクールのスクールマネージャーをしています。

**矢板** 小平市の福祉関係で働いていま

す。育休は、2人目は生後4か月から3か月間、3人目は誕生日前1週間から10か月間取りました。

**司会** 男性の育休取得は職場ではどう受けとめられましたか？

**利根川** 皆が同じ仕事をしていて、抜けたところは誰かが埋める仕組みなので取得しやすい雰囲気です。最近、私の職場で男性の取得率も上がり、以前は第二子以降に取得する方が多かったのですが、今は私のように第一子から取るというムーブメントになりつつあります。

**日下** 職場は女性の方が多く、女性の産休、育休は当たり前でしたが、男性の育休は前例がなかったので、生まれる前から上司に相談していました。理解が得られて順調に取得に至りました。

**矢板** 私の職場では少ないと思いますよ。私の数年前にひとり取ったぐらいのレベルです。10か月間取得するなん

でももちろん前例無しだと思っています。

**司会** 確か、第一子の際は取っていないんですよ。

**矢板** 環境的に取りづらい仕事内容という感じもあり、取るうとも考えていませんでしたね。

**司会** 「戻ってきても机はないぞ」のような高圧的な職場環境でないところに正直驚きました。

**日下** 今の会社に転職する前の職場はオンラインピック絡みの臨時案件で猛烈に忙しく、そこだったらさっさと無理でしたね。

**司会** 育休の仕組みがあっても、取りにくい環境もあるんですね。

**日下** 以前の職場は年齢層の高い方が多く、これから子どもが生まれる方はいなかったもので、自ら環境作りから入りました。

**利根川** 現場の人員が多い場合は取りやすく、育休取得者が重なってきたりすると、人員不足に陥る可能性も…難しいですね。また管理の立場だと弊社であっても4日間くらいしか取れないのが現実です。

\*\*\*\*\*

**司会** 育休期間中の収入面についてお聞きしたいと思います。

**日下** 通常の7割弱くらいでしょうか。その他にリモートワークでいくらか働

いたりもできます。もちろん働く場合にはいろいろな条件や制限があります。

**司会** パートナーの方は仕事をお持ちなんですか？

**全員** そうですね。

**日下** 今現在、育児中です。退職してしまくと、産休・育休手当がもらえなくなってしまう部分もあるので。

**司会** 育児明けに職場復帰した際、元の仕事または希望の仕事に戻れるのですか？

**日下** 結局そこですよ、悩みは：現状は難しいこともあります。戻れる社会であってほしいですね。

**司会** 育児取得にあたって、夫婦での話し合いはされたんですか？

**矢板** 取ってとは言われていません。自ら取りました。1人目の際の妻の育児を見ていて自分でできる育児もあると感じました。2人目の時に申請のタイミングが合わず、生後すぐの一番大変な時期に取れなかったので、3人目は生後すぐから10か月取りました。

**利根川** 私も話し合いはなく、自主的に取った感じです。時代的なものでしょうか、「育児を取る男性のこれからのキャリア」というようなムーブメントが社内になりました。自分にとって社会経験にもなると考えていたところに、妻から「幼い子どもの成長に触れ

られるいい機会なのでは」という後押しもありました。

**日下** 私も妻から言われたわけではないですね。仕事もしつつ家庭にも貢献したいというのがありました。仕事柄、幼い子どもに接する機会も多く、育児経験が活かされています。育児の期間については少々悩みました。

**司会** 育児に関わって見た率直な感想を聞かせてください。

3人のお子さんがいる矢板さんはいかがですか？

**矢板** 実は子どもは苦手なんです。子どもの金切り声なんかイラっとしちゃったり；でも、育児を頑張っている（愛する）妻を喜ばせたい一心で関わってきました。自然と夫婦の笑顔が多くなり子どももそれなりに育ち、家族円満になっています。

**司会** 日下さんは初めての育児での感想などありますか？

**日下** これを一人でやっていたら大変だろうなと感じました。中でも夜に眠れないのが辛いですよね。子どもが泣き止まない、泣いている理由が分からない。心身ともに負担が大きいですね。寝る時間の確保のため、妻とワンオペの交代制にしたんですが、それでも一人ですべてをこなすのはきついもので

すね。

**司会** 今振り返ってみて、具体的に何がきつかったと感じますか？

**日下** 2時間から3時間で泣き、ミルクをあげたり、あやしたりしていると、すぐに時間が経ち、再び泣き始めるの繰り返し。一睡もできないし、泣き声が近所迷惑になっていないかなども気になって…

後日、ご近所さんに会った際「すみません、いつも騒がしくて」と声をかけたところ「大丈夫ですよ」との返答に少し楽な気持ちになりました。

**司会** 利根川さんも初めての育児での想定外の出来事などありましたか？

**利根川** 良い意味での想定外はありません。自分自身が一人っ子で、いとこが8歳上だったりと年長者に対しての関わり方は心得ていたんですが、自分と同年や小さい子に対して苦手意識があり、自分に育児ができるのか不安でした。でも、実際に我が子に対しては自然体で優しく接することができてびっくりしました。

**司会** これは大変だったという具体例はありますか？

**利根川** おむつ替えなどの育児に関する家事には問題はなかったんですが：夜泣きで3時間ごとに起こされるっていうのは辛いものです。仕事柄、早朝

や深夜の勤務などの変則的な時間間隔には慣れているつもりでしたけど。

**司会** 育児に関して事前に何かしら勉強はされていましたか？

**矢板** 保健師の妻から、赤ちゃんの育児などのレクチャーを受けたおかげで、実践も上手かった方じゃないかな。

**日下** 事前に育児経験者の友人に聞いてみたりしましたが、今はネットが普及しているので調べることも容易ですね。また、欲しい情報が毎日流れてくるアプリの利用もしています。そういうこともあり男性の育児参画もしやすくなっている気がします。

**利根川** 私もアプリを使っています。寝た時間、おしっこ、うんち、授乳などを記載することがあるので離れていても子どもの様子を共有できるんですよ。

**司会** 居住している自治体のホームページにアクセスし情報収集することもありますか？

**日下** アクセスしたかもしれませんが、でも本当に欲しいと思う情報は見つけれなかった気がします。

**司会** 矢板さんは福祉関係の仕事だからアクセスしやすいんですか？

**矢板** どうですかね。基本的に自分からアクションを起こさなきゃ欲しい情報は得られないですよ。

**司会** 矢板さんは3人の子育て経験からの気付きなどありますか？

**矢板** 女の子と男の子って違うんですね。女の子はすべてを伝えなくても理解してくれたりするんですが、男の子はすべてを伝えても、とんでもない行動にでたりするんですよ。その宇宙人ぶりがかわいいんですけどね。

**司会** 男性の育児取得に関して苦労した点がありますか？

**利根川** 私の会社は丁寧に説明をしてくれることはなく、自分で国のHPなどの資料を読み込み理解し申請しなくてはなりません。まあ、年配の上司は世代的に自分が取ったことがないので、理解できていない部分もあるんですよ。もらえるはずの手当てが理解不足でもらえなかった同僚の事例もあります。また、第一子で育児を取ったことで上司から「どうせお前、(育児をしないで)遊んでるんだろ」と言われたこともあります。

**日下** 確かに、男性が育児を取っているところ「ほんとに育児してるの？ちゃんとやれよ」みたいに茶化される。一方、女性には「無理しないで頑張ってるね」と労う感じになる。温度感がかなり違いますね。

**司会** まだ、女性がメインで男性がサポートみたいな固定概念に縛られてま

すよね。

**矢板** 今現在うちは子ども3人が全員保育園ですから、送迎は毎日、私の役目です。でも、きょうだい特典みたいなもので3人も同じ保育園に入ってますし、自宅から近いので助かっています。

**司会** いわゆるママ友みたいな関係性もあるんですか？

**矢板** パパ友ですね。学年カラーなんかもあります。若いパパの送迎が増えつつありますね。

**司会** 親交を深めたりしてるんですか？

**矢板** 今6歳の子が来年には小学生になるので、パパ飲みで同じ地域の方と仲良くなり「小学校でもよろしく」なんてこともあります。

**司会** 育児相談のような窓口はどのようなところを利用していたんですか？

**利根川** 助産師さんが生後3か月くらいで訪問してきてくれて、様々な資料を置いていってくれましたね。妻はその中から、児童館で開催されていたファーストベビーママの集いに出かけていました。

10人くらいのコミュニティで保育園選びなどの情報共有ができてよかったです。



強いですよね。

**司会** 同じ状況の方とつながれるのは心強いです。

**日下** 私は、今のところそういうコミュニティの場の利用はしていません。

**矢板** 私も、あまり(コミュニティを)利用した記憶はないですね。

**司会** 実際に育児から職場復帰した際はスムーズにいきましたか？

**利根川** 業務上においては何ら変化は感じられませんが、それ以外のところで所属していた職場制度改革チームに育児中活発な動きがあり、復帰後



はチームから外されてきました。将来的にはキャリアに影響が出るのかもしれないですが、育児の喜びの方が大きかったのが悔いはないです。

**矢板** 3人目の育児中上司から「育休明けの」4月1日から部署異動をお願いしたいんだけど、どうですか？」と言われてびっくりしました。決して違法ではないんですけどね。

**司会** 断ることも可能だったんですか？

**矢板** もちろんそうでしょうが、条件も悪くなかったので「まあいいですよ」と答えました。

**司会** 日下さんはこれから復帰ですが不安などありますか？

**日下** 実際、業務の変更はあるんですが、育児中にインプットしたことがあるので復帰のタイミングで活かせるかと考えています。また、復帰先のチームは知っている方々なので、その点では不安は和らいではいます。

**司会** 業種にもよりますが、育児中にスキルアップを試みることも可能なんですか？

**利根川** 上司からは確かにそんな話もありましたね。でも実際に育児に入ると育児と勉強の両立は厳しいです。私の場合は妻の妊娠を知った段階で家庭の円滑化に役立ちそうだと考え、整理収納アドバイザーという資格を取りました。

9

**司会** どうしたら男性の育児休暇の取得率がアップすると考えますか？

**日下** これからお金が掛かるのに、育児で収入が減ってしまうと困ると思っ  
ている人が多いのでは…実質(元の給料の)8割はもらえるはずなんですけど。また、経営者側は人員がマイナスになっても、ポジションを確保しておくためにそこを補うわけにはいかず、結果マイナスになった人員分の仕事が周りに割り振られ忙しくなる。職種によっても違うのかもしれないが大きな課題だと感じます。

**利根川** 私の職場でも事務方は仕事内容が属人化していることも多く育児は取りづらい雰囲気のようなです。意外なところでは、外資系コンサルタントの知人は半年くらい育児が取れるそうです。ユニットごとに働いているため、抜けたところは他のメンバーが補うという仕組みのようです。まだまだ日本は改善の余地ありですね。

**司会** 仕事が属人化しているも専門職が来れば穴は埋まるんですね。  
**矢板** 派遣や契約といった人が来てくれればいいですね。

**司会** 短期専門職にもきちんと賃金が支払われる社会であってほしいですね。  
**日下** 子育てしやすい環境を作ることで結婚を前向きに考える男性も増えるのではないのでしょうか。周りでも、結婚

はしなくてもいいと考える人が増えている気もします。

**司会** 男性の育児取得時期は出産後から最長1年のようですが、幼児期に取ることは可能なんでしょうか？

**利根川** 男性にはないと思います。女性は子どもが2歳まで保育園に入園できなかったらという条件付きで延長できるはずですよ。

**司会** 子どもの夏休みに合わせて育児を1か月間取って…なんてことはできないんですか？

**全員** それは取るとすると有給休暇ですね。

**司会** 育児を経験してみて楽しさと大変さについてお聞きしたいと思います。

**矢板** 2人目の時は首が座った頃から取ったので、家族旅行をいっぱいしましたね。かけがえのない家族の時間を作れました。3人目の時は産後すぐからなのでどっぷりと育児を堪能しました。100パーセント楽しかったかな。

**日下** 私も100パーセント楽しいと思えます。もちろん育児での大変なことや悩みもありますが、それも含めて楽しいですね。

**利根川** 私は育児取得に関しては良かった度で言えば100パーセントですが、子どもが生まれる前の妻と自分の生活のリズムが根底から覆されるというか、自分のリフレッシュ時間を子どものた

めに使わなければいけないなど、自分が適応していく大変さを感じました。育児は全然楽しかったよなんて言えず、楽しさと大変さは五分五分です。でも「子どもと過ごした時間」はものすごく大事であり幸せだったと思います。

**司会** 育児中に限らず普段から通常の家事もこなしていらないですかね。

**矢板** 子どもが3人もいると意識せずにはやってますよね。育児の合間に、いかに効率よく家事をこなすかは大事です。分担しているというよりも、今、妻が料理をしていたら自分は洗濯物を干すというようにその時々で働いてやっています。妻もフルタイムで働いているので男が女の区別なく同じ土俵なのでフイフイフイですね。

**司会** なるほど。でも現実には職業によってもですが、勤務時間の関係でそうもいかないこともありますよね。

**日下** 育児中は在宅なので、もちろん分担して家事はこなしています。でも妻の方が細かいことに気付きがあり、なんだかんだで妻の方が家事の割合は多くなってしまうですね。感謝しています。妻からもありがとってくれるので、やはりコミュニケーションが大事ですね。

**利根川** 育児中は私も皆さんと同じように家事や育児をしていました。でも職場に復帰すると仕事柄泊まり勤務も

あるので、明確にスケジュールを組んで家事や育児に取り組むようにしました。そうしないと妻の負担がほぼ全部になってしまうので。

**司会** お話を伺っていると、家族皆で同じ時間を共有することの大切さが伝わってきました。

**利根川** 今回の企画で、同世代の方とパ友になり、身近な何気ない育児や家事についての会話ができて良かったです。

**日下** 身近で育児を取った男性はいなかったのが話できて良かったです。今も育児中なので突っ走ってきて、改めて振り返ることが自分にとっていい機会でした。もっと育児を取得する男性が増えればいいなと思います。

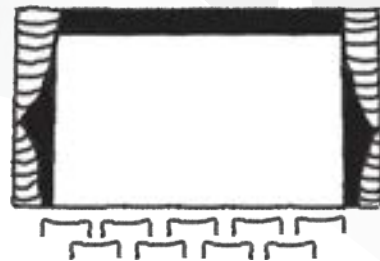
**矢板** 私も育児取得時の振り返りの時間になり貴重でした。そこで感じたんですが、女性の育児や家事能力の頭の回転の素晴らしさには頭が下がります。その能力を社会での活躍に広げるためにも「主夫」が浸透するのもありですね。「男性が育児を取ったからすごい」という社会が変わっていくといいですね。

\*\*\*\*\*

男性の育児取得の背景には女性の社会進出が関係しているんですね。女性の社会進出の場の環境が整ってくれば、男性の育児取得率も上がるでしょう。成熟した社会の実現に繋がりますね。



# 本・映画・ドラマの中の 男女共同参画



小平市男女共同参画センター“ひらく”にある本の紹介です。

『10代から知っておきたい  
女性を閉じこめる「ずるい言葉」』  
森山 至貴<sup>のりたか</sup> 著



相手を瞬間的に傷つけたり、その自由言動を遮ったりする、そういう言葉を「ずるい言葉」と著者は考えています。

「ずるい言葉」を浴びせられるのは、圧倒的に女性が多いので、女性たちに実例を教えてもらい、そういう言葉を言われたときの「対処法」、そのことの「関連用語」、さらに深く知るための「参考文献」を項目ごとに解説しています。

10代から「将来、こんなことを言われるかもしれない」と知っていた方が良いと著者は考えています。

「ずるい言葉」はハラスメント、差別、アンコンシャスバイアスが含まれているようです。

こんな言葉で人を傷つけない世の中になって欲しいと思います。

WAVE出版 1500円＋税



『女らしさは誰のため?』

ジェーン・スー 著  
中野 信子 著

「女らしさ」から縁遠いところで育った二人が、幼少期や学生時代の経験や身近な事例をもとに、「女らしさ」という概念を丁寧に再考していく。

対談形式のためさらりと読め、また中野さんの脳科学者としての知見が、一見既知に思われる「女らしさ」の議論にアクセントを加えているのが興味深い一冊。

ジェンダーについて考えるときに、生物学的な性差を無視することがどうしても難しい、という人におすすめしたい。

個人の生きづらさが社会構造によるものだということを表した名短文はいくつもあるが、暫定一位をこの本で発見。「それ、あなたのせいじゃなくて、社会のバグのせい」

小学館新書 920円＋税



『アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か?』  
これからの経済と女性の話

カトリーン・キラスマールサル 著 高橋 璃子 訳

アガサ・クリステイのミステリーのようなタイトルのこの本。アダム・スミスとは、経済学中心主義の世の中で、その経済学の基礎を体系だてたイギリスの哲学者だ。また、「世界の経済



は利益をもとめる個人の活動によって発展する」という資本主義の定義を考え、労働者の生産性を上げることが国を豊かにしていくとまさにタイトルどおりの「国富論」を唱えた経済学者でもある。

労働に分業を取り入れることによって作業を単純化させ、結果、短い時間で無駄なく成果を上げる。まさにトヨタのような効率化が国を豊かにしていく定義、これに飛びついたので現代の産業社会。だが現状はどうか? 利益は上がっているが、労働者は豊かになっていない。

むしろ労働していない人間の上に利益はもたらされ、貧富の格差は恐ろしいほど広がっている。少しも「国富」ではないのが現状だ。

スウェーデン出身のジャーナリスト、カトリーン・マルサルはアダム・スミスに、いったい誰が食事を作っていたのか、その疑問から、いまの経済学にかけている自己犠牲について考察していく。

アダム・スミスの食事は年老いた母親が作った。身の回りの世話も死ぬまで彼女がした。この行為は経済学的にはどう評価されるのか。経済が上手く流れない時それを修正するのは「神の見えざる手」ではなく愛という自己犠牲だった、「見えざる手の届かないところに、見えない性がある」と彼女は追求していく。

本書は経済中心主義がどんな人々の犠牲のもとに存在しているのか、という、経済格差の結び目をほぐす視点を指摘する、エキサイティングな本だ。河出書房新社 2100円＋税

# 育児・介護休業法

## (育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律)

少子高齢化が進む今の日本では、将来的に労働人口の減少などにより社会の仕組みに様々な影響が及ぶことが危惧されています。これらを背景に、平成4（1992）年4月に育児・介護休業法が施行され既に30年以上が経ちます。そこには4つの代表的な制度、「育児休業」「子の看護休暇」「介護休業」「介護休暇」が定められています。

施行後も、社会の変化に合わせて頻繁に改正が行われ、令和4（2022）年10月には、育児休業の分割取得が可能になり、新たに「出生時育児休業制度」（産後パパ育休制度）も創設されました。また令和5（2023）年4月には、事業主に対して育児休業等に関して様々な措置を講じることや、大企業（従業員数1,000人超）には「育児休業等取得状況の公表」を義務付けました。また休業取得者に対して解雇や契約内容の変更の強要、降格や減給、不利益な配置の変更、ハラスメント行為なども禁止しています。これらに関して、行政からの勧告や指導に従わないなどの場合には、過料を含む罰則も定められています。

しかし最新（令和4（2022）年度）の育児休業取得率の調査では、女性は80.2%なのに対し男性は17.1%（過去最高）。増加傾向にあるものの、男性の育児休業取得はなかなか進んでいません。

この法律は、働く人が出産や育児・介護によって離職することなく、希望に応じて男女ともに仕事と両立できる社会を実現することを目指しています。働き方を見直し、ワークライフバランスを促進したり、男性の育児参加や家事分担を支援するのに大きな役割を担っています。

男性の育児休業取得が増えることで、女性の活躍する機会が増え、さらには誰もが活躍できる社会の実現にも繋がります。その為にも、より一層の社会の理解が進むことが期待されます。



【厚生労働省 HP】  
育児・介護休業法解説

### 表紙について

小平市大沼町にある「ガスミュージアム資料館」で表紙の撮影をしました。

ガスミュージアムは新青梅街道沿いにあり、交通量も多い場所ですが、敷地の中に入りますと、静かな別世界に入った感じがしました。

庭園の綺麗な花と木々に囲まれた芝生の中に、明治時代を彷彿とさせる赤レンガの洋館（ガス灯館とくらし館の2館）が建っています。撮影日は天気良く、空の青さと洋館の景色が美しくかったです。

ガスミュージアムはガスの歴史・明治時代の錦絵や台所、風呂、暖房などの生活用品の展示などがある博物館です。ミュージアムショップもあり、入場は無料です。

また、地域の人々の文化交流の場にもなっていて、コンサートやイベントなども開催されています。



撮影：長塚 秀人

### 皆さんの声をお寄せください。

広報誌『ひらく』を読んでの感想やご意見など、以下のメールアドレスやQRコードなどからお寄せください。

今後の企画の参考にさせていただきます。

●市民協働・男女参画推進課へメール  
kyodo-danjo@city.kodaira.lg.jp



## ひらくはココにあります。

男女共同参画センター“ひらく”、公民館（11館）、図書館（11か所）、地域センター（19館）、大学（6か所）、福祉会館、市民総合体育館、児童館（3館）、市内保育園、幼稚園、健康センター、健康福祉事務センター、市役所、東部・西部出張所、郵便局（17か所）、市内各駅（7か所）、ふれあい下水道館

小川町	手作りクッキーの店 歩、商工会館、JA 東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、南台病院、和食処 楠
小川西町	佐野商店、たましん小平支店、NMC ギャラリー、小川ホーム
小川東町	ギャラリー青らんざ
上水本町	アトリエ・パンセ
学園西町	ビューティーサロン サンローズ、美容室ヘアグラッシュ、ヘアサロン サンライズ、笹間住宅資材、学園接骨院、国際交流協会、しらす鍼灸治療院
学園東町	日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、リそな銀行小平支店、おだまき工房、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室 Je、とりあん、お化粧のしのぎさ、Kimamaya T&K、宮鍋園本店、レンタル BOX 学園坂
仲町	小平消防署
鈴木町	egg Cafe
天神町	ビレッジグリーン
美園町	多摩済生病院、カフェラグラス、珈琲の香、POEM、永田珈琲、ルネこだいら、子育てサポートきらら、アンデスの家ポリビア
大沼町	ガスミュージアム
花小金井	公立昭和病院、Tacos Mercado

広報誌『ひらく』の  
バックナンバーはこちら→



### 編集後記

● 実行委員会の仕事のひとつは広報誌『ひらく』年2回の発行。その内容は「男女共同参画社会」。「男性は仕事、女性は家庭」という価値観に縛られ過ぎて来たように感じて居りますが、現在は、多様性が尊重される世の中になってきていると思います。今回の特集「男性の育休取得」の座談会はその本場にびつくりする位に社会変化のある内容でした。

● 私事ですが『ひらく』の作成に携わらせていただいていたからもうすぐ2年が経ちます。毎号自分だけでは知りえないことが多く、記事を読む度に新しい視点がひらける感覚がします。本誌を読んで似たような気持ちになった人が居たら嬉しいなと思います。



## 合唱はとても楽しくて大好き



女声合唱団コールライタゴ会員 メゾソプラノ  
塚原 直子(つかはら なおこ)さん

月3回、土曜日の午前中は合唱の練習日。取材日は9:30前から会員が集まって、最近出演した「みんなでつくる音楽祭 in 小平」<sup>(\*)1</sup>の録画を見ていました。その間、塚原さんはホワイトボードにこれからの予定や注意を書いたり、打ち合わせをしたりして忙しく動いていました。



2022年小平市合唱連盟秋の合唱祭  
この時は混声合唱で歌いました

「子どもたちの楽しそうな笑顔は忘れられません」。塚原さんは音大4年の夏、山口県に合唱行脚<sup>(\*)2</sup>に行きました。「小学校や中学校を回り、生徒さん達と一緒に歌ったり、手拍子をした時のこと」が楽しい思い出となっていると話し始めました。音楽好きな両親のもとで幼稚園の頃からピアノを習ってきた塚原さんは、中学校では器楽部でアコーディオン、高校ではマリンバの演奏に没頭しました。音大の教育科に合格後、学費を得るためピアノを教えながら大学へ通いました。ピアノ教師を続け、結婚して子どもが小学生になった頃、PTAコーラス部を友人と2人で作りしました。部員がふえないのは活動時間がわるいと考え、公民館で午前中に活動を始めたところ、部員が少しずつ増えました。その後、女声合唱団コールライタゴへ入会して約30年、主にメゾソプラノで合唱を続けてきました。コールライタゴを立ち上げたお一人、ピアノの奈良紀美子先生と指揮の櫻井三津子先生の指導を受けながら、会の代表を長く(15年以上)務めました。コロナ禍では練習ができず、35周年記念公演は中止になりました。現在は楽譜係や合唱連盟の係として会を支え、80代、90代の一部の会員を車で送迎しています。

すぐに「合唱はとても楽しくて大好きです」という答えが返ってきました。「普段と違うことをするので、歌った後は気持ちが晴れます」「呼吸が大事だから健康になります」「一人で歌うのは自信がない人でも一緒に歌えます」と塚原さん。家族の協力も大事です。子どもたちが小さかった頃は同居する母親が面倒をみてくれました。「夫は(妻の)好きなことだからとあきらめています」と言うものの、約束通り塚原さんの実家で暮らしてきたのですから、塚原(夫)さんはかなり理解のある方だと言えます。

2025年の春、コールライタゴは40周年記念の公演を企画しています。仲間といっしょに「スタンドアローン」「時代」「糸」「こうもり」などを歌います。ほとんどの歌は、指揮の櫻井先生が会員にアンケートをとり、希望を聞いて選びました。2時間(休憩時間10分)みっちり練習に精を出す塚原さんもみなさんも輝いて見えました。

- \*1 12月の障がい者週間に小平市中央公民館で開催される市民がつくる音楽祭
- \*2 1954(昭和29)年から1989(平成元)年にわたり、国立音楽大学教育音楽学科(1950-1990)に所属していた教員と学生が一丸となり、全国各地の小・中・高等学校等で音楽教室を開催した出張活動のこと

長い間続けてきた合唱の魅力はどこにあるのかを尋ねると、

## 第27回 ひとひと 女と男のフォーラム

### エンパワーメントする女子校 ～男女共同参画の視点から～

令和6(2024)年2月17日(土) 午後2時～3時30分  
小平市中央公民館ホール

講師 辛酸なめ子さん 漫画家、コラムニスト



自然体で能力を伸ばすことが出来る女子校カルチャーについて、ご自身の体験や複数の取材エピソードを紹介してくださいました。エピソードの解説には、くすりと笑いを誘うイラストを添えてくださり分かりやすく親しみを覚えました。青少年の生きる力を養う貴重な時間、空間を形作るものについて今一度考えてみたいと感じる内容でした。

『大人のマナー術』  
辛酸なめ子 著 光文社新書



## ひらく

第54号  
令和6(2024)年  
3月発行

発行/小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課  
☎042-346-9618 FAX 042-346-9575  
✉kyodo-danjo@city.kodaira.lg.jp

企画・編集/小平市男女共同参画推進実行委員会  
安食世津子 竹田 雪美 中村 幸世  
笹尾かをる 谷原 裕子 並木 菜里  
高橋 雅子 中條 洋子 宮川 和之

### 令和6年度 小平市男女共同参画推進実行委員 募集!

男女共同参画を進めるため、講演会の企画・運営、広報誌『ひらく』の企画・編集などの活動をしていただける方を募集します。任期は令和7(2025)年3月末までです。

- 対象** ○市内在住・在勤・在学の方(経験は問いません)  
○月1～2回の会議に半数以上参加できる方
- 募集期間** 令和6年4月30日(火)午後5時まで
- 応募方法** 下記の必要事項をご記入の上、郵便・ファクシミリ・電子メールで応募先へ。  
①氏名(ふりがな) ②住所 ③生年月日 ④応募動機(400字程度)  
⑤メールアドレス ⑥電話番号
- 応募先** 小平市 地域振興部 市民協働・男女参画推進課 男女共同参画担当  
詳細は市報4月5日号または小平市ホームページをご覧ください。